

みちしるべ

みずからのために道しるべを置きみずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句 : いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。どんなことにも感謝しなさい。(テサロニケの信徒への手紙 I 5:16~18)

保育目標:	0歳児	・周りの友だちや保育者との関わりを楽しむ。
	1歳児	・神さまがくださったたくさんの恵みを味わって喜ぶ。
	2歳児	・自由に自分を表現し、周りに受けとめられて過ごす。神さまの恵みを味わって感謝する。
	3歳児	・自分の思いを友だちや保育者に共感してもらい、自分で折り合いをつける経験をする。
	4歳児	・自分が感じて想像したことを工夫して思ったように表現する。神さまの恵みを感謝する。
	5歳児	・友だちと相談することやアイデアを出し合うことで、思いの違いを調整して遊ぶ。神さまからの恵みを感謝して、周りの人たちと分かち合う。

朝晩の空気が冷え、季節の移ろいの早さに驚く日々です。登園時「寒くなりましたね。」と言葉を交わす機会が増えました。毎朝お布団の中が気持ちよくてなかなか抜け出せない私です。

年少組のお昼寝明け、なかなか目が覚めないK君に出会いました。コットの上でゴロゴロ。目は開いているものの、身体はまだ起きません。周りの子をおやつへ送り出しながら、K君が動き出すのを待っているとゆっくりと這い出すように近くまでやってきました。おやつ場所まではロフトの階段を降りていかなければ辿りつけません。階段の一番上に腰を掛けていた私の膝元まで来たK君。しばらくそこでもゴロゴロし、階下の様子を伺っているようでした。少しして「抱っこで行く？」と尋ねると、すぐに「抱っこは『お母さんの』なの！」と語気を強めて言いました。そこで私ははっとし、「ごめん、ごめん。そうだよ。抱っこは『お母さんの』だったよね。」と応じ、身体を寄せました。K君の「抱っこは『お母さんの』」という言葉が何度も私の中をめぐりました。しばらくして、K君はぽつりと「抱っこでおやつに行く。」と身体を預けてくれました。まだゆっくりしたい気持ちとおやつ、その間で揺らぎながらもなんとか折り合いを付けようとする姿に、その状況と私を許してくれたように感じました。いつもなら自分のペースを貫くK君、周りの様子にゆっくりと歩調を合わせようとする思いが見え隠れしていました。

「K君にとってお家の方との関係が心地よいこと」や「抱っこなら…とってしまった私のおごり」「抱っこって時によって特別なことでもあり、都合の良いことにもなること」K君のそばにいながら、いろいろなことを考えました。その時の私なりに良いと思って関わったことが、K君にとっては心地よいこととは限りません。よくよく考えるとそれは、「私なりに」よいと思ったのであって、「K君にとって」よいこととは別だったことを痛感させられました。

子どもとの生活の中で、どのように応じようか迷うことは山ほどあります。ちょっとしたつづきや子どもからの思いがけない投げかけに「…ん。」と立ち止まって考えることもあります。人として試されているような気持ちを抱くこともあります。そのたびに私は一人の人間として、子どもの前にどう佇むか考え続けています。子どもから望まれる大人として存在することはなかなか難しいことですね。けれど今回のK君のように子どもたちは私に必要な機会を与えてくれています。子どもと生活することの『尊さ』、『豊かさ』をじっくり味わいながら、心地よい園生活を子どもと共に創っていきたいと思います。

私たちはそれぞれのご家庭で大切にされている子どもたち一人ひとりをどのように迎え、育とうとする力にどのように寄り添うか日々思い巡らせています。子どもたちが「自分は愛されている存在」なのだと思うよう、お家の方とバトンを繋ぎ合える存在でありたいと思います。

11月は収穫感謝礼拝を捧げます。神さまから愛され、たくさんの恵みをいただいていることを感じると共に、周囲の人からも守られ、愛されていることを喜び感謝して、大切なひとりとして歩んでいけるよう祈ります。

幼児主任 千葉 綾子